

### Ⅲ 同行支援の効果

#### 在住外国人および日本人 DV 被害者への同行支援の効果についてのアンケート調査

DV 被害者への同行支援について、同行を依頼した DV 被害当事者と同行先に、アンケートを実施しました。

#### 1 調査概要

- (1) 事業実施時期 平成 29 年 10 月～12 月
- (2) 事業実施場所 東京都内
- (3) 実施方法と実施数
  - ①同行支援を利用した DV 被害当事者に、ハガキによるアンケートを実施。  
70 人（日本人 65 人、在住外国人 5 名 すべて女性）
  - ②在住外国人・日本人の DV 被害者支援に関わる弁護士、行政、民間支援団体等へのアンケートを実施。同行後にアンケート用紙に記入後、メール・FAX で返送などの方法をとった。アンケートは同行支援があった被害者一人に対して 1 枚として、同行先での同行支援の評価をしてもらった。  
61 機関（日本人対応 33 機関 54%/在住外国人対応 28 機関 46%）

#### 2 結果概要

##### 【当事者の評価】

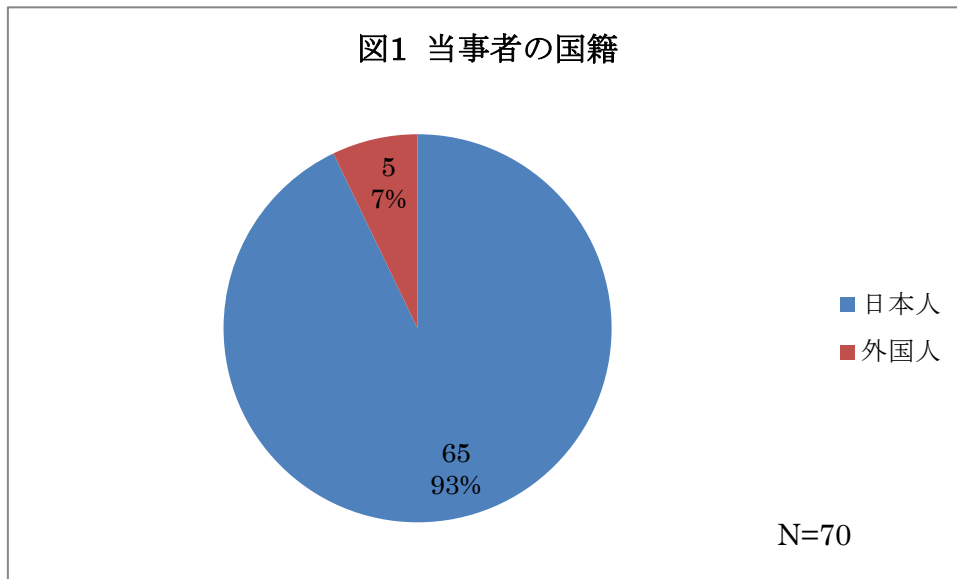
- ・同行支援を利用した DV 被害当事者の 9 割以上が同行支援を評価している。
- ・「不安が軽減した」97%、「一人で言えないことが言えた」94%、「相手とのやり取りがスムーズになった」91%、子どもの見守りがあってよかった（同伴の子どもが当事者 100%）だった。

##### 【同行先評価】

- ・同行先の機関等に、同行支援の効果についてきいたところ、9 割が「話し合いが効率的だった」「内容的に正確なコミュニケーションができた」と答え、8 割が「相談者が落ち着いているように見えた」と答えている。
  - \* 「話し合いが効率的だった（73%）」「どちらかとうと効率だった（17%）」。
  - \* 「相談者と内容的に正確なコミュニケーションができた（75%）」「どちらか当てはまる（11%）」。
  - \* 「相談者が落ち着いているように見えた（73%）」「どちらかといえばあてはまる（7%）」。
- ・すべての同行先機関が「同行支援サービスが DV 被害者支援において必要」と答えている。

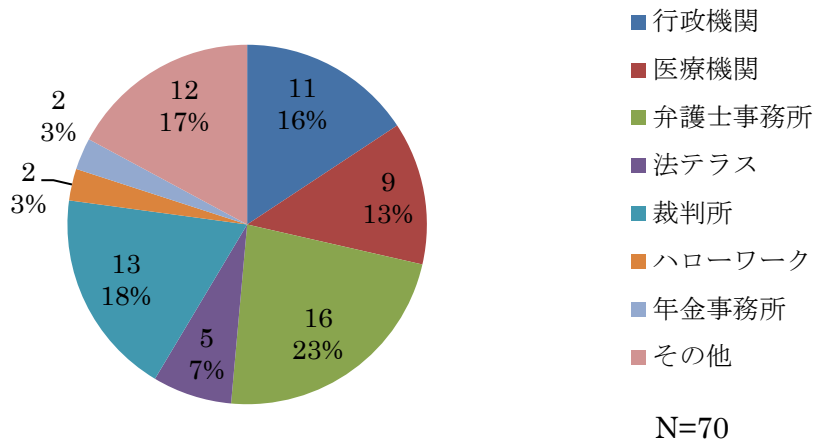
### 3 結果詳細

#### 【当事者調査】



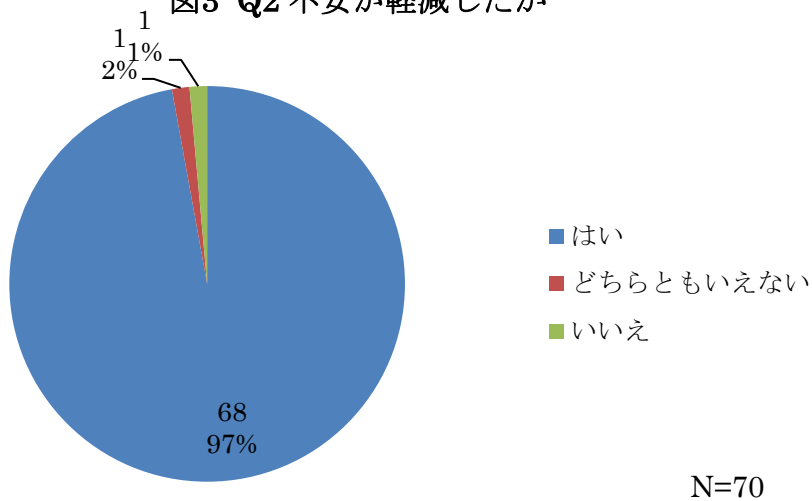
- ・同行を依頼した被害当事者 70 人からアンケートの返答を得た。うち、日本人が 93%で、外国人が 5%。
- ・同行支援者がヒアリングするのではなく、同行支援後に本人にハガキに記入し投函してもらった。
- ・外国人被害者へ同行件数は多いにも拘らず（Ⅱ同行支援の現状を参照）、同行支援の評価アンケートについてなかなか返答を得られなかった。アンケートが日本語で、しかも、質問項目がハガキサイズに収まるように小さいポイントであったこと等により、返答しづらかったと思われる。

図2 Q1 同行支援サービスを利用して訪問したところはどこですか

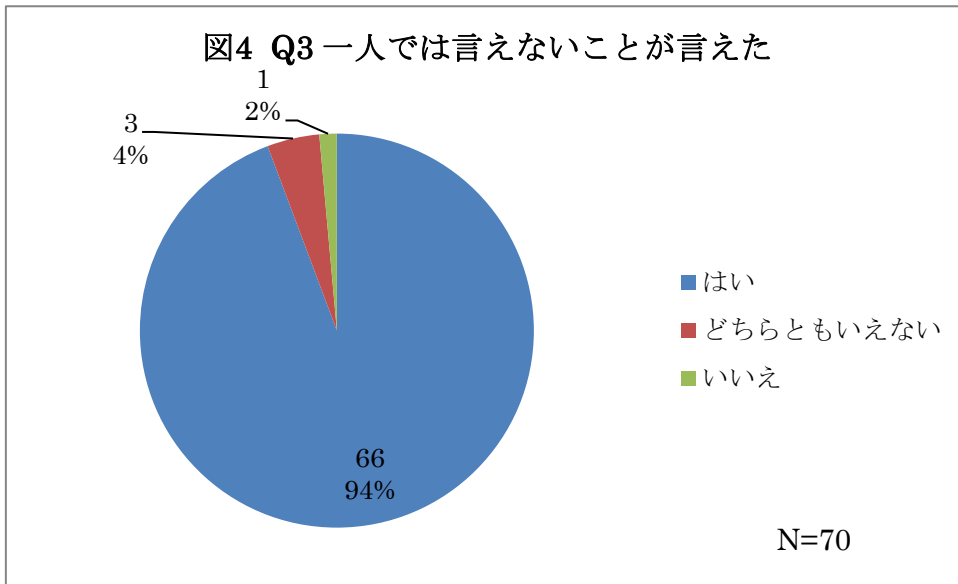


アンケートに答えた当事者が同行を依頼した先は、弁護士事務所(16%)や法テラス(5%)の離婚や親権などの法律面での相談機関が21%。次いで、調停や裁判のための裁判所13%。福祉事務所や市役所・区役所などの行政機関が11%、医療機関13%、ハローワーク、年金事務所がそれぞれ3%、その他17%だった。その他の中には、警察、ホテル、不動産屋、携帯電話ショップなどがある。

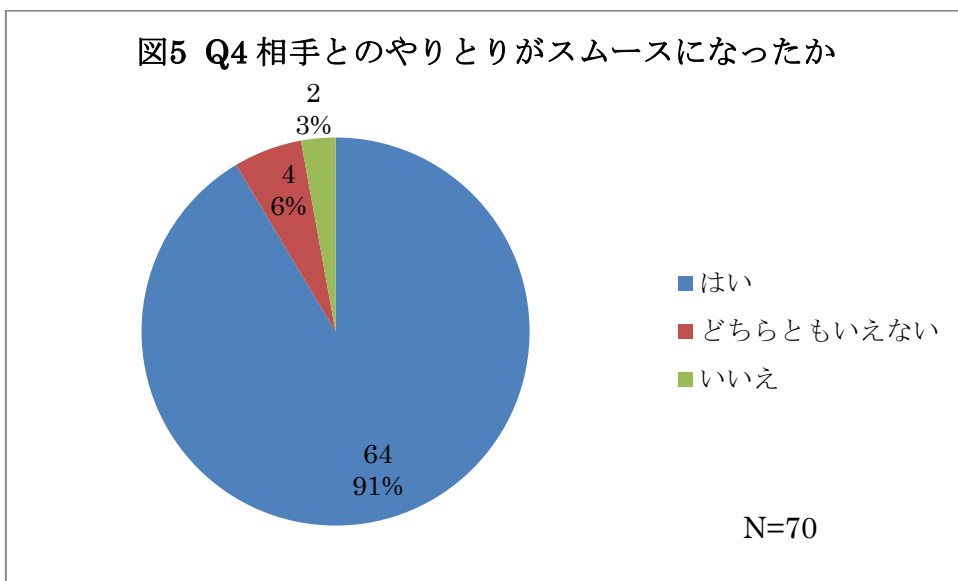
図3 Q2 不安が軽減したか



・97%の人が同行支援を受けて不安が軽減したと答えている。

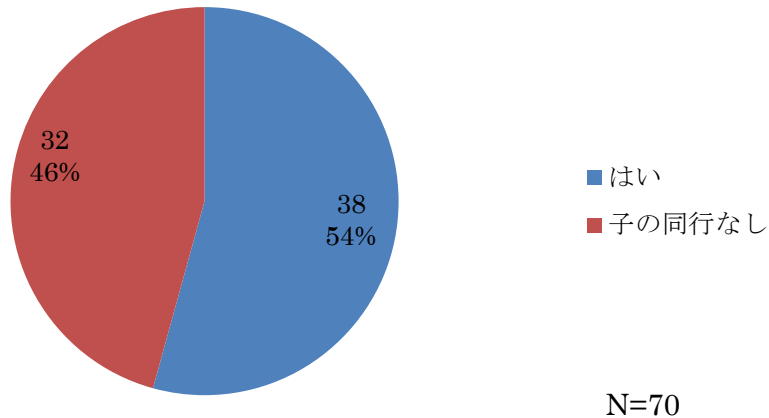


・支援員が同行したことで94%の人が、一人では言えなかったことが言えたと答えている。



・91%以上が、弁護士や行政担当者、医師や看護師等とのやりとりがスムーズになったと答えている。

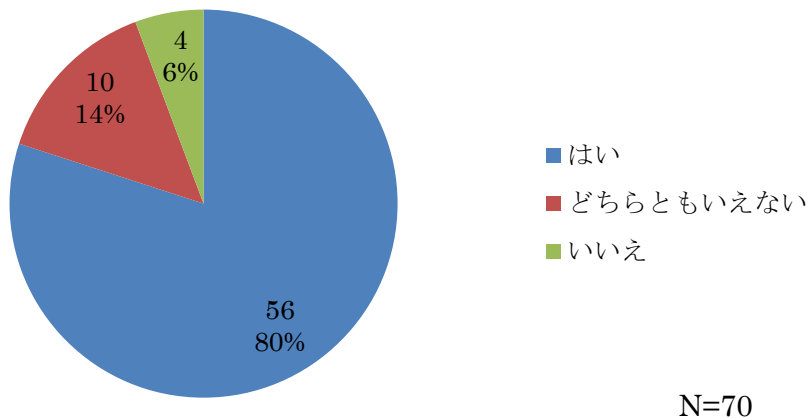
図6 Q5 同行する子どもの見守りがあってよかった



か

- ・同行時に子どもが同伴していた人はすべて、子どもの見守りがあってよかったと答えている。
- ・子どもが同伴の場合は、支援員の数を増やし、または、被害者に同行しながら子どもの見守りも実施している。
- ・加害者から離れて安定した居住地が得られていない場合など、公的な託児サービスを受けられず、かつ、親族や友人など個人的に子どもの見守りを頼めない場合もあり、相談時の託児・子どもの見守りはなくてはならないと言える。

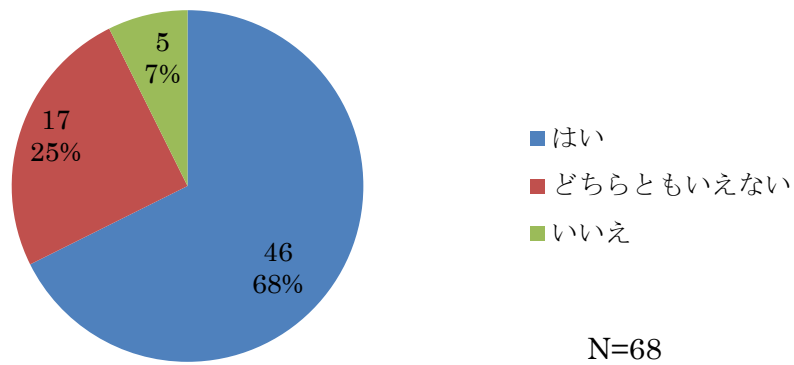
図7 Q6 同行支援以外に欲しいサービス：継続相談



N=70

- ・同行支援以外に「継続相談」を望む回答者が 80%との高い割合だった。
- ・同行支援を依頼する当事者は、すでに行政や民間の支援につながっている人もいるが、支援機関につながらず一人で法律相談や行政手続きをしている人たちもいる。すでに相談につながっている人もまた、そうでない人も、継続的に相談できるところを望んでいると考えられる。

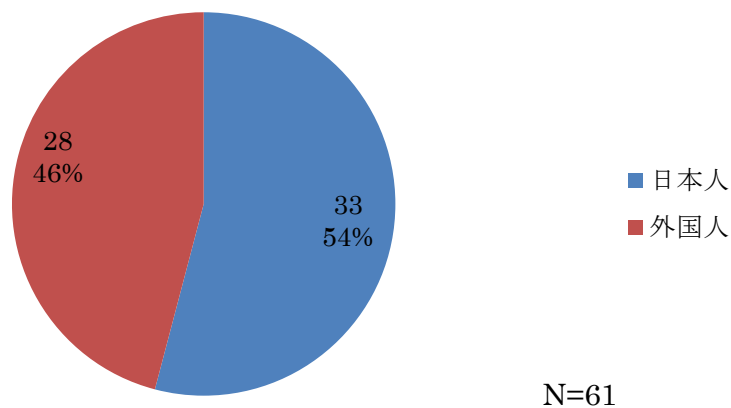
図8 Q7 同行支援以外に欲しいサービス：講座や相談などに関する情報提供



- ・同行支援以外に「講座や相談についての提供」を望む回答者は 68%との結果だった。3人に2人以上は、情報提供を望んでいるといえる。

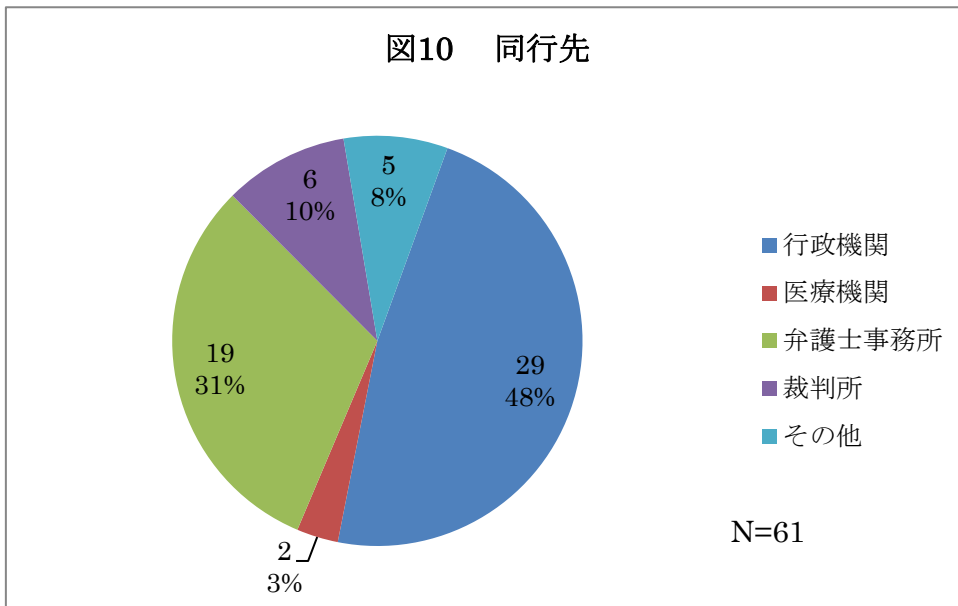
### 【同行先調査】

図9 相談者の国籍



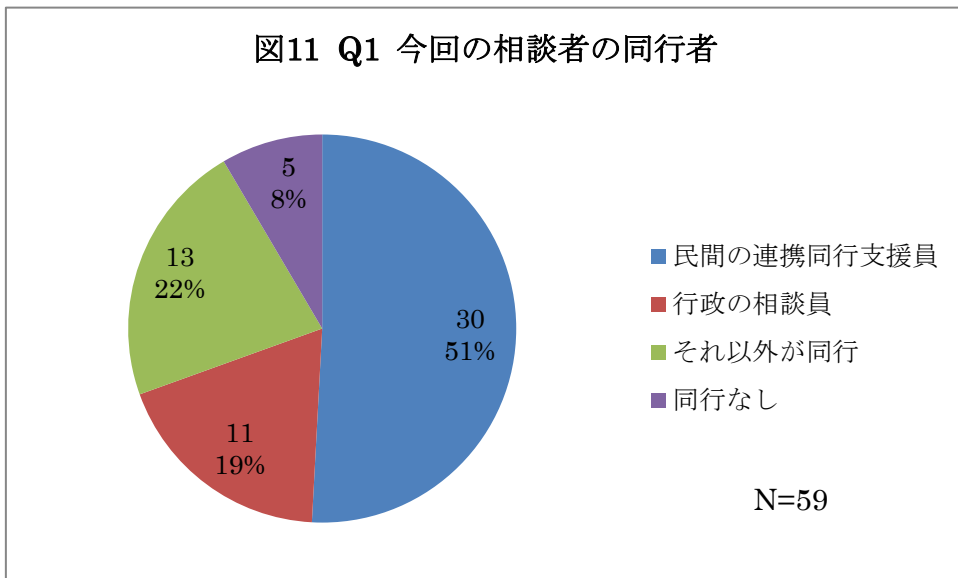
- ・同行先の機関で対応した相談者のうちの日本人は 54%、外国人は 46%であった。

図10 同行先

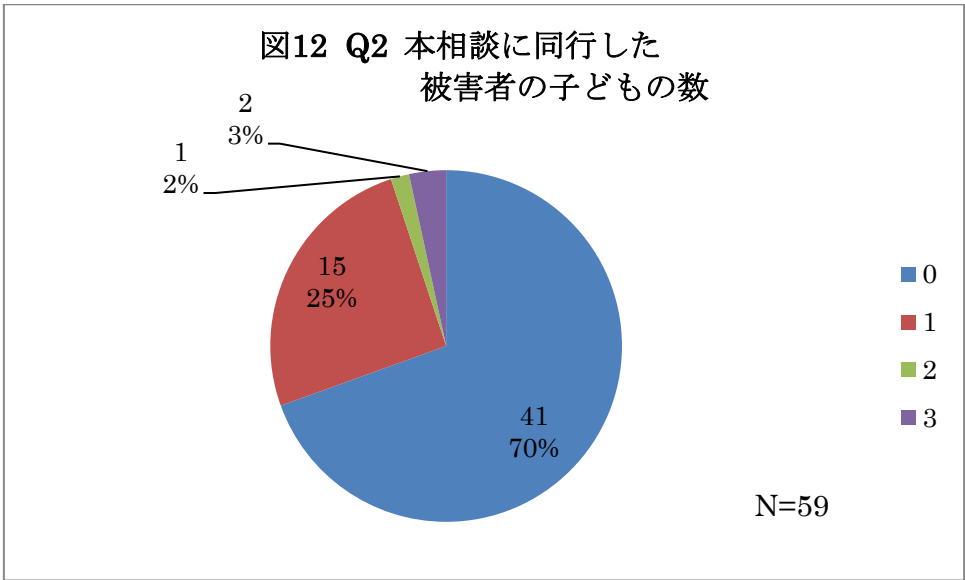


- ・ 今回のアンケートに答えた同行先の機関は、行政機関 48%、弁護士事務所 31%、裁判所 10%、その他 8%、医療機関 2%となっている。
- ・ その他の中には、ホテル、不動産屋などがある。

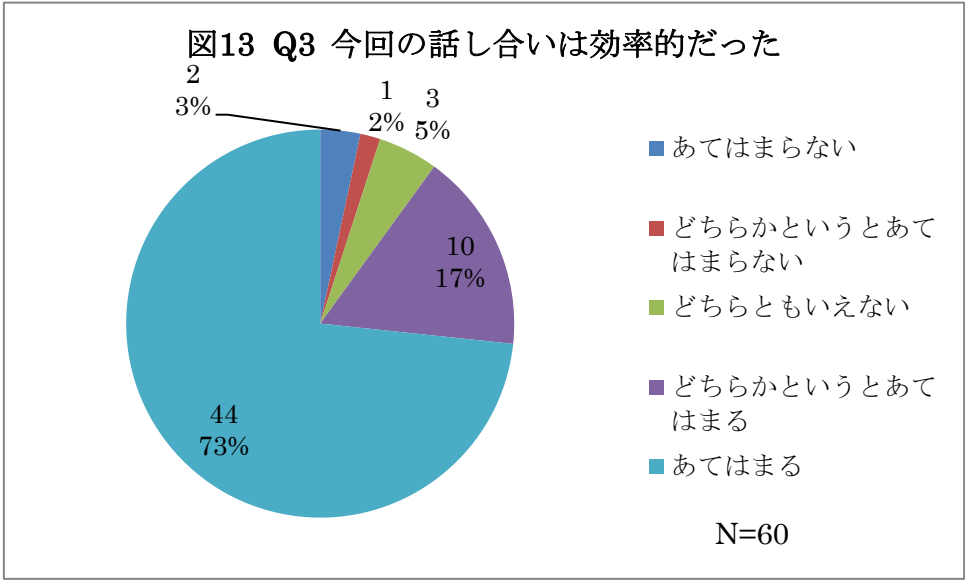
図11 Q1 今回の相談者の同行者



- ・ 同行先に同行者を聞いたところ、民間の連携同行支援員 51%、「婦人相談員」などの行政職員 19%、親族や友人、知り合いなどが 22%、同行なしが 8%であった。



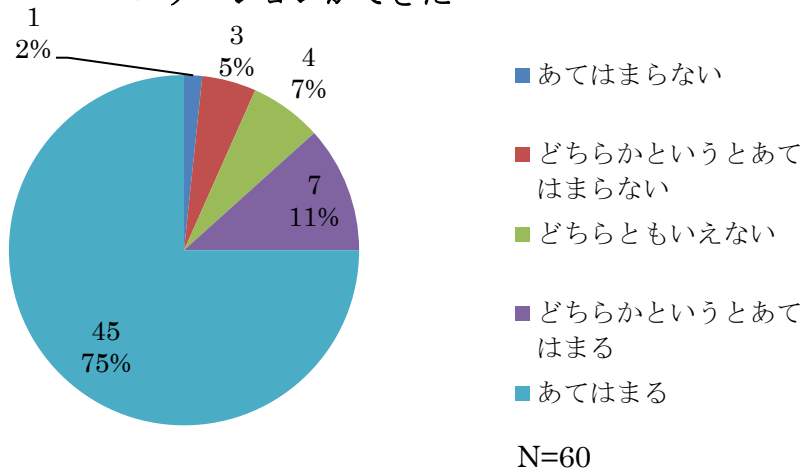
・同行先による回答によると、本調査の対象当事者で、同行先への同伴した子どもを聞いたところ1人が25%、2人が2%、3人が3%で、全体の30%を占め、70%は同伴した子どもはいなかった。



・同行支援の効果についてきいたところ、話し合いが効率的だった（73%）、どちらかとうと効率的だった（17%）と答えた同行先は9割を超えている。

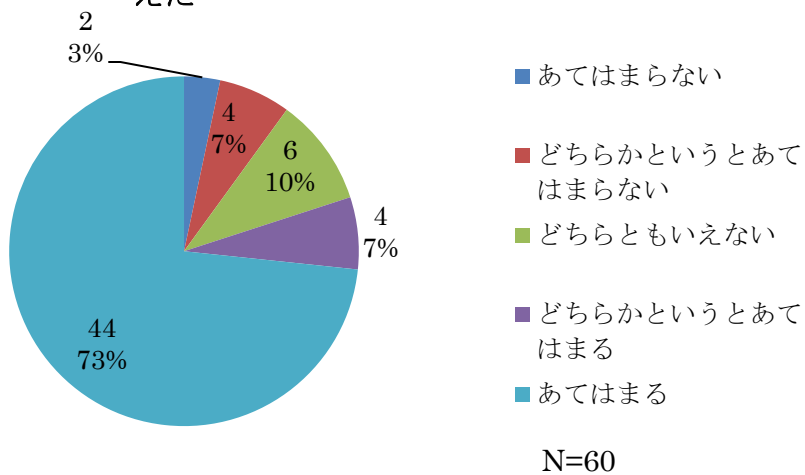


図14 Q4 相談者とは内容的に正確なコミュニケーションができた



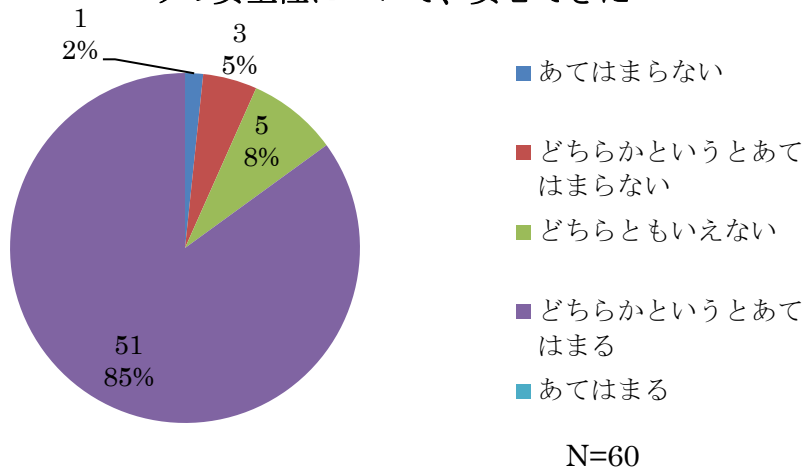
・同行先の機関で「相談者とは内容的に正確なコミュニケーションができた」と答えたのは、「あてはまる」(75%) , 「どちらかというにあてはまる」(11%) を合わせると 86%で、9割近くになっている。

図15 Q5 相談者は落ち着いているように見えた



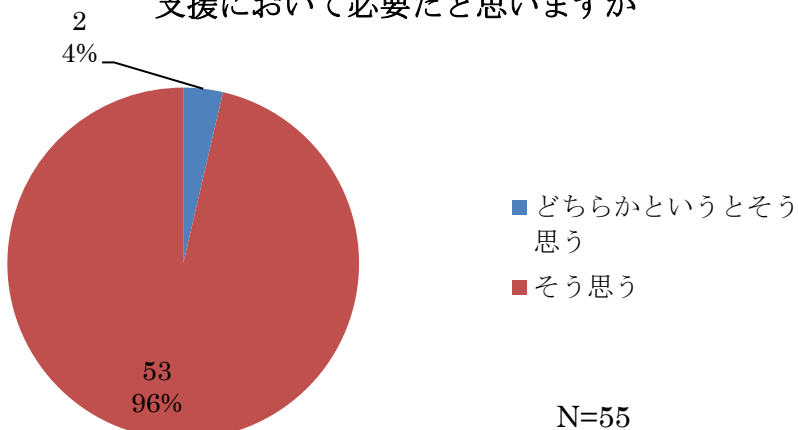
・同行先の機関で「相談者が落ち着いているように見えた」と答えたのは、「あてはまる」(73%) , 「どちらかというにあてはまる」(7%) を合わせると約8割になっている。

図16 Q6 本相談にかかる被害者の行き帰りの安全性について、安心できた



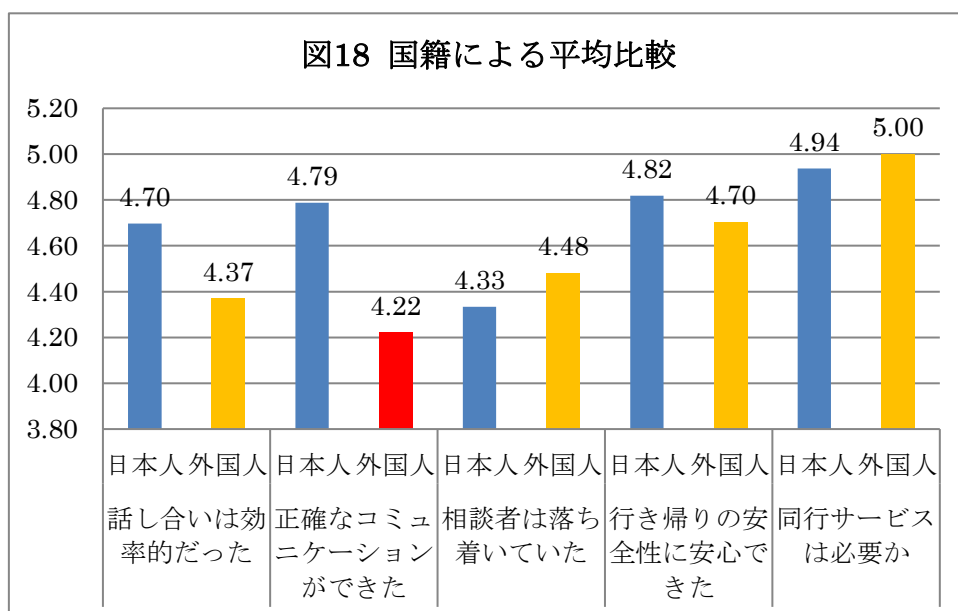
- ・同行先の機関で「被害者の行き帰りの安全性について、安心できた」と答えたのは、「あてはまる」(2%)、「どちらかといえばあてはまる」(85%)で、87%となっている。
- ・「話し合いの効率性」、「正確なコミュニケーション」、「相談者の落ち着き」については、「当てはまる」が7割を超えたのに対し、「安全性についての安心」は、「あてはまる」は2%で、「どちらかといえばあてはまる」が8割だった。

図17 Q7 同行支援サービスはDV被害者支援において必要だと思いますか

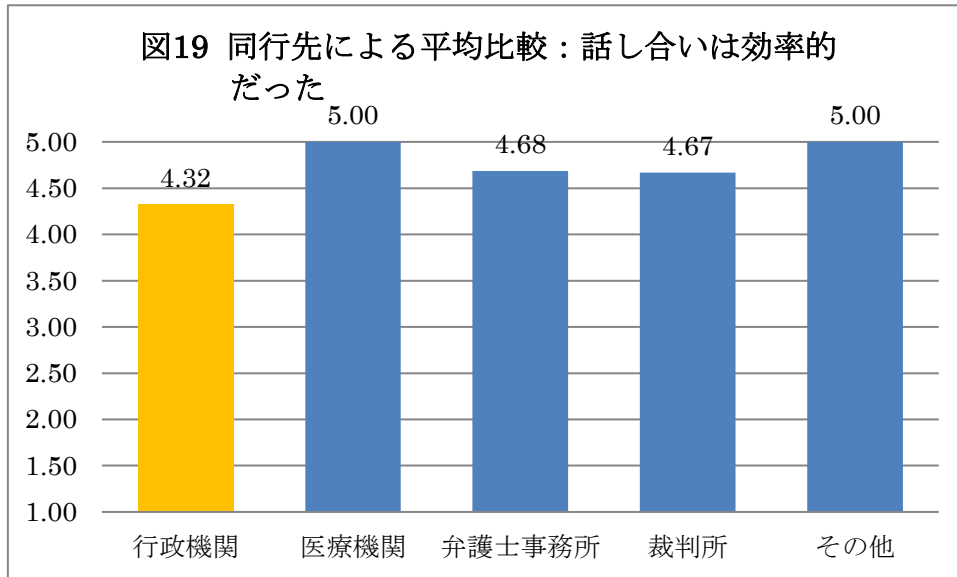


- ・同行先の機関で「同行支援サービスがDV被害者支援において必要か」について、すべての機関が必要と答えている（「そう思う(96%)」もしくは「どちらかというと思う(4%)」）。

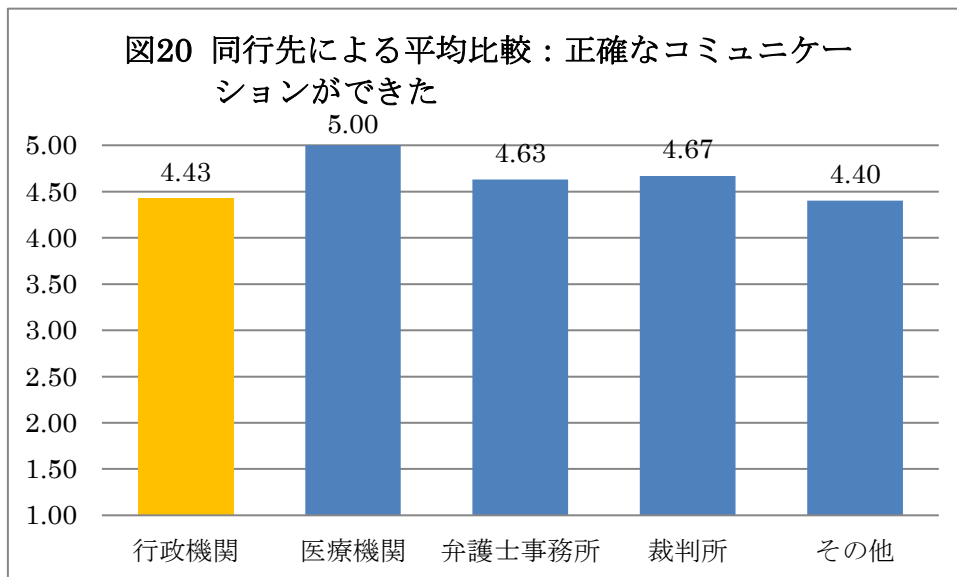
以下、平均値に統計的に有意な差( $\alpha=0.05$ )が見られた場合は棒グラフ中の棒を赤で、統計的に有意ではないものの注目すべきものはオレンジで示した。



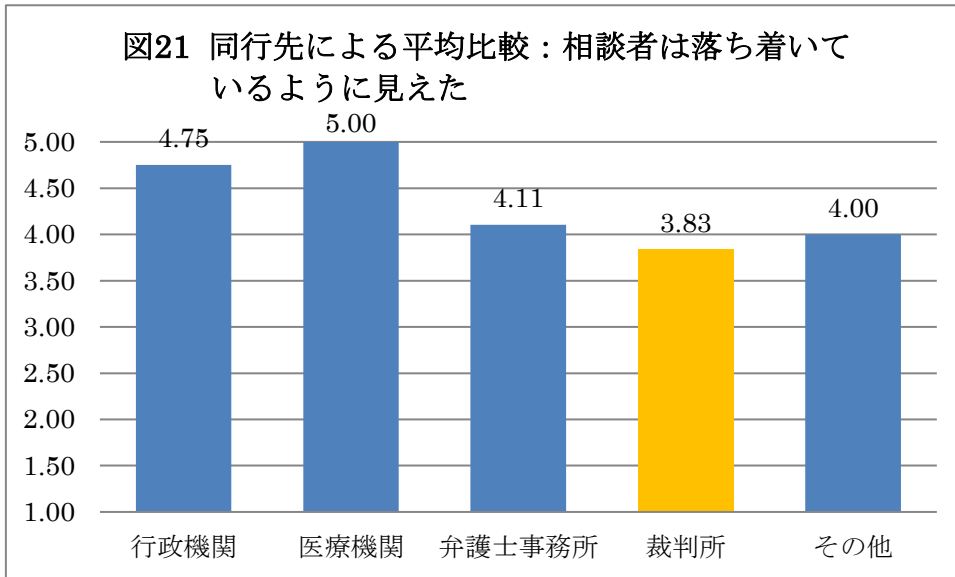
- ・日本人と在住外国人の相談者の平均値の差を  $t$  検定により比較したところ、平均値に統計的に有意な差が見られたのは「正確なコミュニケーションができた」( $t=2.22$ ,  $df=32.4$ ,  $p=0.017$ ) であった。
- ・上記の有意な差は、同行支援があることで「正確なコミュニケーションができた」と感じる当事者は、日本人より外国人が少ないことを示している。
- ・外国人への同行支援の場合、「同行支援ができる通訳が同行する」「(日常会話が可能とのことで) 通訳なしで同行支援のみ」の場合があると考えられるが、通訳や同行支援があったとしても、外国人とのコミュニケーションが日本人と比べてその効果が低いとすると、同行支援がなかったら、相談員と同行先の機関とのコミュニケーションがさらに困難になることは、図 25 から推測できる。



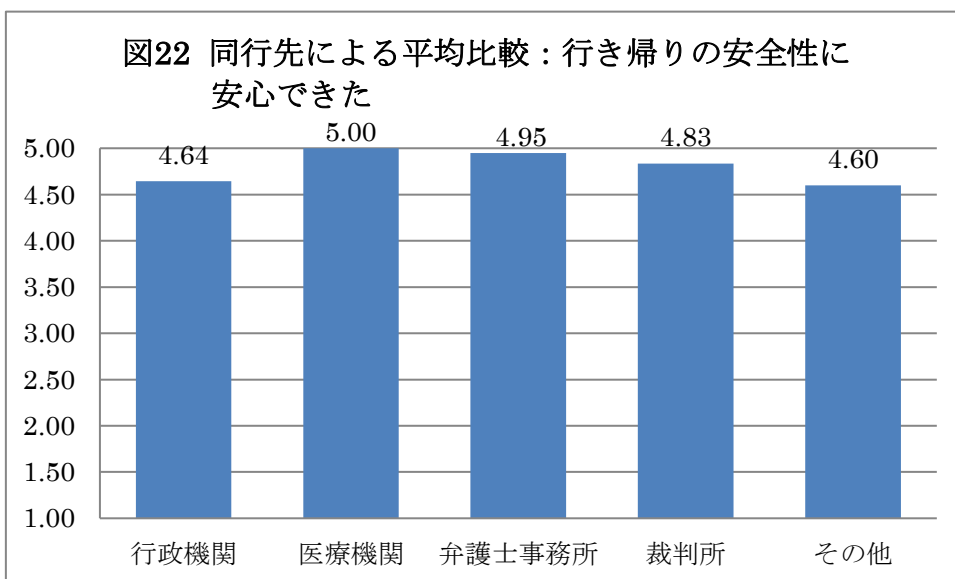
- ・「話し合いが効率的かどうか」を同行先によって比べると、医療機関、その他（不動産屋、携帯電話ショップ等）の割合が高くなっている。
- ・行政機関が低めにでていることは、行政機関においては同行支援があってもなかなか「効率的」には進まない原因があるかもしれない。全体的に同行支援に効果があることは、図24から明らかとなっている。



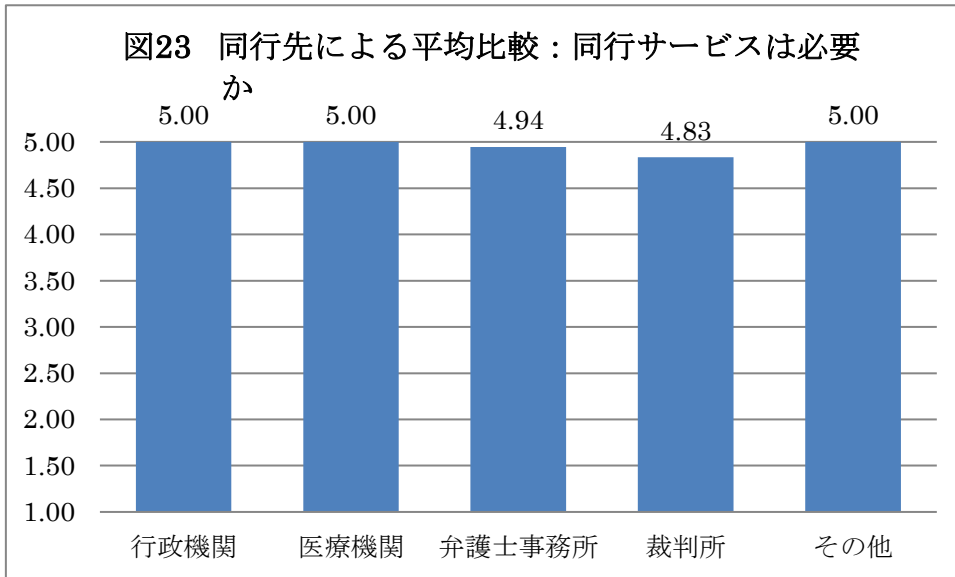
- ・「正確なコミュニケーションができたかどうか」について同行先によって比べると、医療機関の割合が高くなっている。
- ・行政機関が低めにでていることは、同行支援があってもなかなか「正確なコミュニケーション」が成立しない原因があるかもしれない。全体的に同行支援に効果があることは、図25から明らかとなっている。



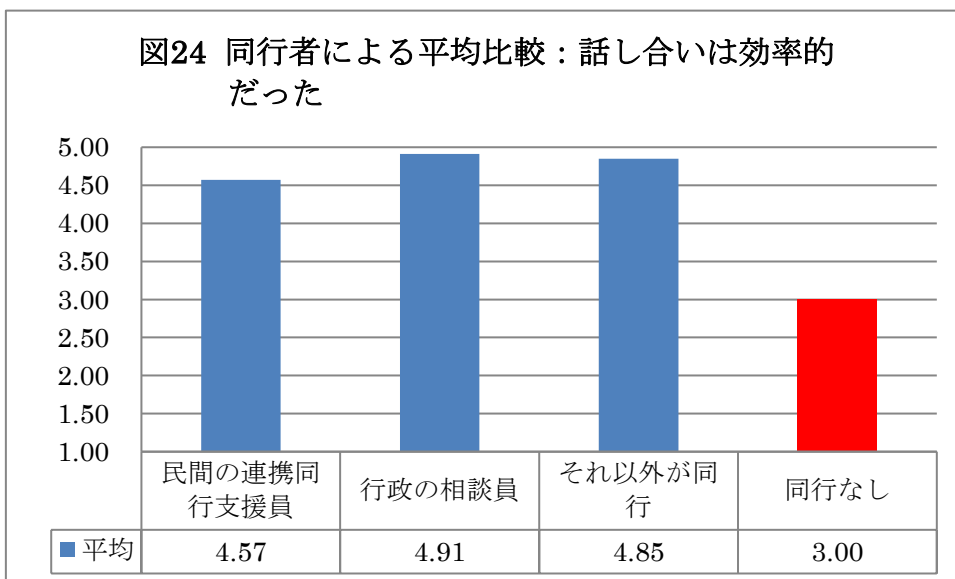
・「相談者が落ち着いているように見えた」について同行先によって比べると、裁判所が低くなっている。これは、同行支援があったとしても、裁判所に行く際は「加害相手と会うかもしれない」、「調停・裁判がどのようなようになるか不安」等があり、落ち着かないことがあると考えられる。



・「同行支援があることで相談者の行き帰りの安全性について安心できた」について同行先による差は見られない。

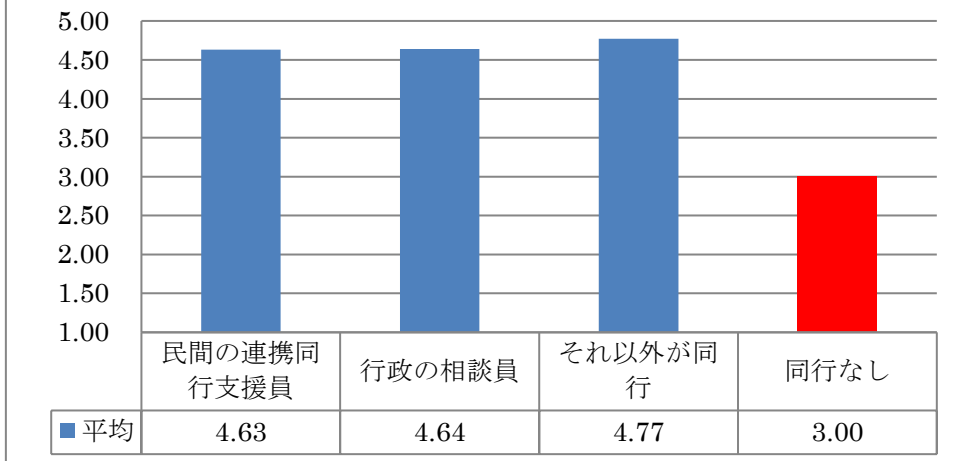


- ・「同行支援が必要かどうか」についての質問では、同行先による差は見られず、必要性が極めて高い。



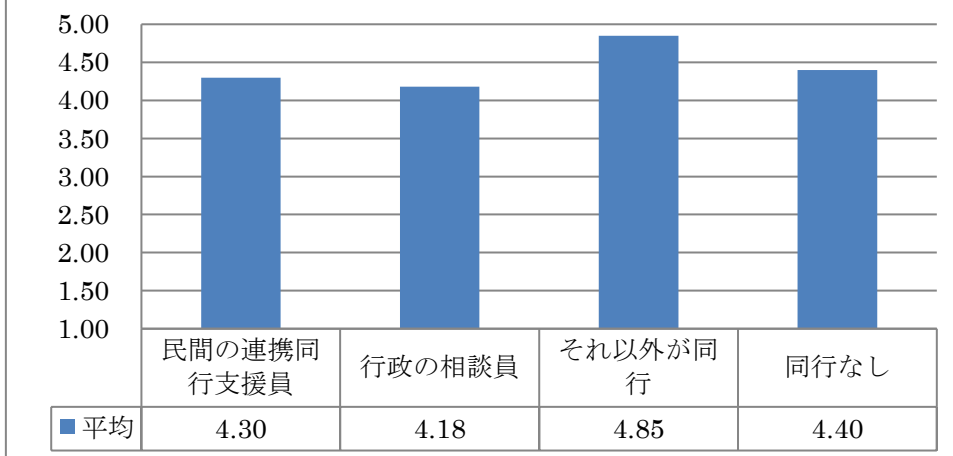
- ・分散分析によると、平均値間で統計的に有意な差が見られた ( $p=0.000$ )。
- ・「話し合いが効率的かどうか」について、同行者による違いを見てみると、「同行あり」と「同行なし」で統計的に有意な差が見られ、「同行あり」では「話し合いが効率的」であったことがわかった。
- ・同行者が「民間・行政・その他の同行者」であるかどうかの違いはみられない。

図25 同行者による平均比較：正確なコミュニケーションができた



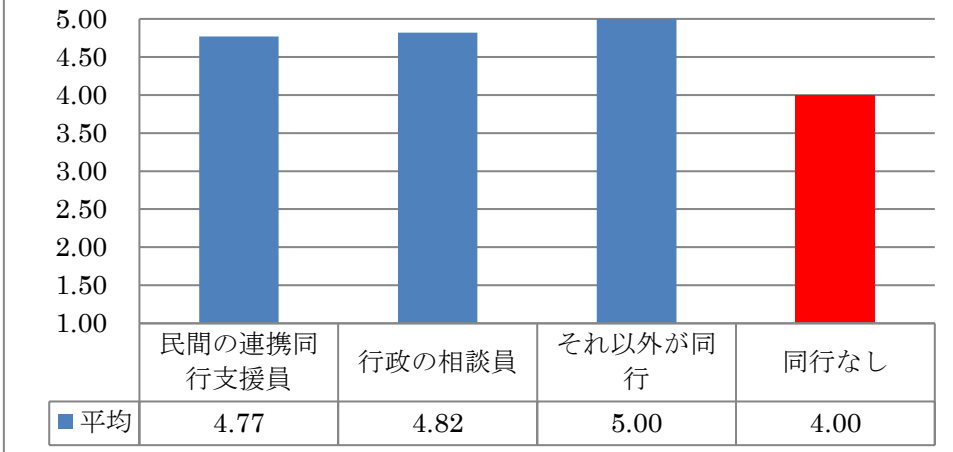
- ・分散分析によると、平均値間で統計的に有意な差が見られた ( $p=0.001$ )。
- ・「正確なコミュニケーションができた」について、同行者による違いを見てみると、「同行あり」と「同行なし」で有意な差が見られた。「同行あり」は「同行なし」よりも「正確なコミュニケーションができた」ことがわかった。
- ・同行者が「民間・行政・その他の同行者」であるかどうかの違いはみられない。

図26 同行者による平均比較：相談者は落ち着いているように見えた



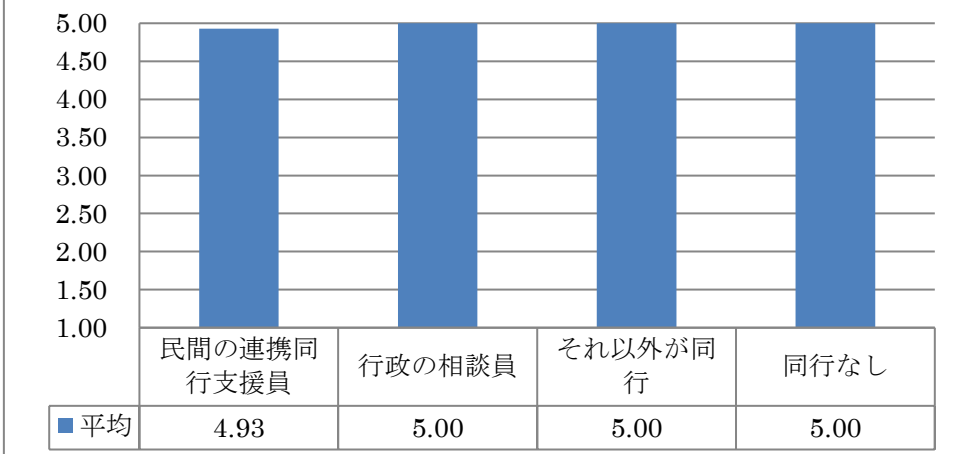
- ・同行先の機関からみて、同行支援の有無により、相談者が落ち着いているかどうかについては統計的に有意な差は見られない。

図27 同行先による平均比較：行き帰りの安全性に安心できた



- ・分散分析によると、平均値間で統計的に有意な差が見られた ( $p=0.020$ )。
- ・「行き帰りの安全性について安心したか」について、同行者による違いを見てみると、「同行あり」と「同行なし」で有意な差が見られた。「同行あり」は「同行なし」よりも「行き帰りの安全性に安心できた」人が多かったことがわかる。

図28 同行者による平均比較：同行サービスは必要か



- ・「同行支援の必要性」については、調査時の同行の有無、誰が同行したかに関わらず、支援先は同行支援を必要としていることがわかる。



## 【同行支援アンケートの感想】

アンケートの自由記述に書かれた内容

### ◆当事者から

- ・同行支援がなければ身動きできず、今の安全な生活ができませんでした。感謝にたえません。ありがとうございました。
- ・同行して頂いて本当に助かりました。ありがとうございました。

### ◆同行先

- ・被害者の方が安心して調停に臨むことができ、子どもの養育費等、重要事項に集中して話し合いができました。
- ・話し時間に無駄な時間をかけず効率的であった。同行支援員(コーディネーター)から事前に当事者へレクチャーしていただいたので、上手く話し合うことができた。
- ・緊急避難してきたばかりのDV被害者は、単独で物事を考え行動することが困難だと思われます。同行支援が行われることで、次につながる行動が早められます
- ・被害者の方は、初回面談より安心してお話なさった。効率的にお話をおうかがいできたと思います。
- ・被害者の方が安心して調停に臨めたようで、実質的な話し合いも進められた。